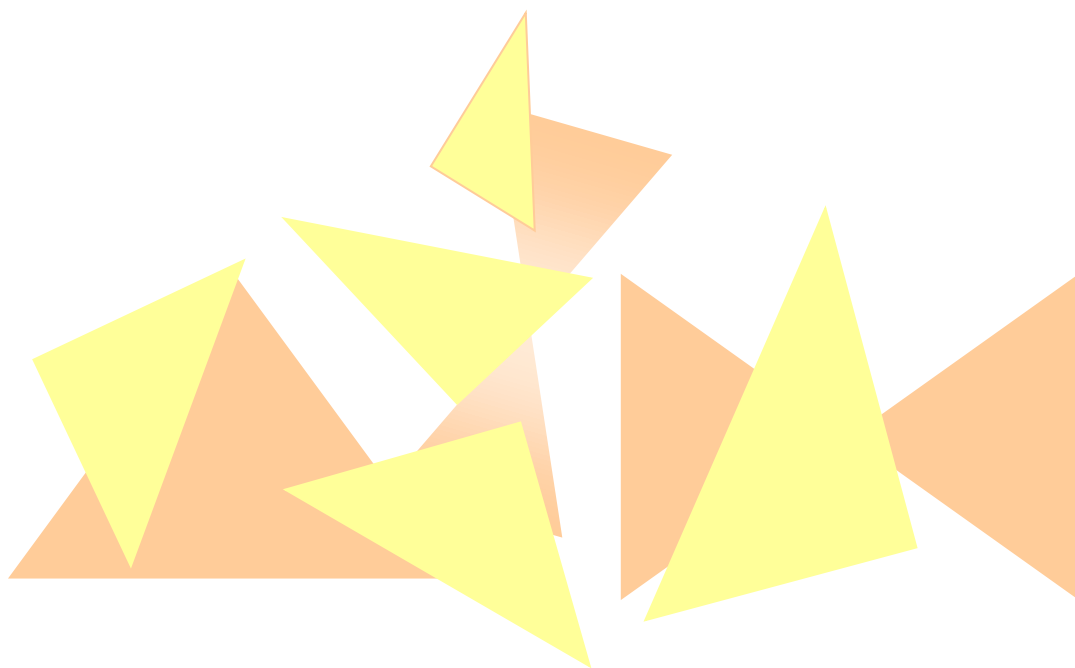


第1章

令和4年度の男女共同参画に関する主な動きと取組み

県では、令和3年3月に山形県男女共同参画計画を策定（計画期間：令和3年度～7年度）し、男女共同参画による豊かな地域社会を築くための取組みを進めております。

第1章では、「オンライン100人女子会」や「ビジネスウーマン交流会」などの女性の活躍促進、「やまがたイクボス同盟」や「男性育休取得促進プロジェクト」などのワーク・ライフ・バランスの実践拡大に向けた取組み、また山形県男女共同参画センターの取組みやDV未然防止に向けた意識啓発の強化についてなど、令和4年度の男女共同参画に関する主な動きと取組みを御紹介します。



1. 女性の活躍促進

(1) 女性も幸せに暮らし働ける山形県の魅力の創出・発信事業

若者、特に女性の県外流出が顕著となる中、女性の県内定着・回帰に向け、女性の現状・ニーズを把握するため、県内外の女性による意見交換会「オンライン100人女子会」を開催するとともに、若年女性向けに「Yamagata Role model collection～山形での仕事と暮らしロールモデル集～」や、多世代向けに性別による固定的役割分担意識の解消を促す啓発媒体を作成しました。



〔オンライン100人女子会の様子〕

○オンライン100人女子会

【開催日】令和4年9月28日（水）、10月1日（土）

【参加者】学生を含む、県内外の若年女性 101名

【内容】①アイスブレイク&ミニセミナー

“わたしたちを取り巻く山形県のリアルとポジティブチェンジのためのリフレーミング”

コーディネーター：高橋 理里子氏（ミライズ株式会社 専務取締役）

②グループトークセッション “ホンネで語る山形の暮らし”

3つのテーマ（Ⅰ仕事やキャリア Ⅱ暮らし、子育て Ⅲ地域、自治会）について、グループトークを実施

③グループトークの振り返りと全体共有 “明日からのわたし”

【グループトークで出された主な意見】

Ⅰ仕事やキャリアについて

- ・共働きが多いので女性が働くこと、働き続けることへの理解がある企業が多い。
- ・賃金が低くそもそも共働きをしないと生活が大変であり、女性が産育休中に男性も育児休業を取得するのは金銭的に厳しい。
- ・女性の役職者が少なく、ロールモデルとなるような上司が少ないため、キャリアプランを描きにくい。
- ・お茶当番、電話取りなど女性だからといった固定観念による役割分担がある。
- ・共働きが多いのに、家事や育児など女性への負担が大きい。
- ・「子どもは祖父母に預けるのが当たり前」という多世代同居前提の話がされるのがつらい。

Ⅱ暮らし、子育てについて

- ・両親が近くに住んでいるので子育てを頼みやすい。
- ・祖父母が子どもの面倒をみるのが当たり前という意識があるので、祖父母に頼れない人たちの肩身が狭い。核家族に優しくない。
- ・遊戯施設の対象年齢が小学校低学年まで等で、子育て施策が小さい子どもだけの目線になっている。小中学生が遊べる施設がほしい。
- ・男性の育児休業が普及してきている。

Ⅲ地域について

- ・地域を盛り上げる人が増えてきていて、エネルギーを感じる。
- ・自治会など地域のリーダーは男性になってもらった方が丸く収まる雰囲気がある。
- ・地域や学校、親戚づきあいなど、人間関係が密で大変なことがある。

○若年女性向けロールモデル集

「Yamagata Role model collection～山形での仕事と暮らしロールモデル集～」

オンライン100人女子会で出された意見をもとに、若年女性が少し先の未来を前向きにイメージするうえで参考となるような県内女性の多様な働き方・暮らし方について、県内の大学生や県内出身・在住の社会人が取材したデジタルロールモデル集及びインタビュー動画を作成し、SNS等で発信しました。



〈県ホームページ掲載場所〉

トップページ>くらし・環境>人権・男女共同参画>

「Yamagata Role model collection～山形での仕事と暮らしロールモデル集～」



○性別による固定的役割分担意識の解消を促す多世代向け啓発媒体の作成

若年女性の県外流出の要因としても挙げられている性別による固定的な役割分担意識について、具体例をイラスト等で分かりやすく掲載しながらそれらの解消を促す多世代向けの啓発媒体（デジタルリーフレット、動画、パネル）を作成し、多世代に向けて発信しました。



〈県ホームページ掲載場所〉

トップページ>くらし・環境>人権・男女共同参画>

「性別による固定的役割分担意識の解消を促す啓発媒体について」



(2) 女性活躍前進懇話会の開催

県では、女性もその力を十分に発揮し、いきいきと暮らし、働けるよう地域経済・社会における環境整備に向け、県内各界で活躍している方々から御意見をいただき、女性活躍を前進させるとともに、県の施策に反映させることを目的として「女性活躍前進懇話会」を設置しております。

令和4年9月8日（木）、「女性もいきいきと山形県内で暮らし、働くために」をテーマに、各界で活躍している方々との意見交換会を開催しました。

懇話会では、株式会社日本総合研究所 副理事長 山田 久氏から、「女性活躍をさらに進めるために」と題し、なぜ女性活躍が必要なのか、コロナ禍で芽生えた女性活躍の可能性について、話題提供されました。

その後の意見交換では、女性管理職の割合が少ないことや、育休制度があるにもかかわらず、制度が機能していない実態もあるとして、経営者の意識改革に向けた働きかけが必要である、等の意見が出されました。



(3) ビジネスウーマン交流会の実施

県内で働く女性（ビジネスウーマン）等が交流し、悩みや課題を共有することでモチベーションアップや意識改革につなげるとともに、県内で働く中長期的なキャリア・ライフイメージをもってもらうことを目的に、ビジネスウーマン交流会を開催しました。

【開催日】令和5年2月7日（火）

【参加者】県内で働く女性・働きたい女性 86名

【パネルディスカッション】

荒井愛氏（愛和建设株式会社）、石川昭子氏（株式会社スプリングス代表取締役）、鈴木優美氏（山形朝日株式会社）の3名をパネリストに、西田稚子氏（にしだ産業医事務所）をファシリテーターに迎え、「私らしく輝く！～それぞれのキャリアアップ～」と題してパネルディスカッションを実施しました。

パネリストからは、自分自身のキャリアや転換期、決断時の葛藤などに触れながら「はじめはリーダーとして自分が頑張らなければと思っていたが、今は部下の魅力を引き出すことを重要視している」、「周りをよく見て助けを求めている人を見逃さない、自分も困った時には遠慮なく周りに助けを求めることが大切」、「これからキャリアアップする女性のモデルとなれるよう、働きやすい環境をつくっていききたい」などの意見が紹介されました。

【セミナー&交流会】

スキルアップやキャリアアップに役立つ情報を得られるミニセミナーとして6つのグループに分かれ、セミナーの受講とそれを受けての交流会が開催されました。どのグループでも活発な意見交換が行われ、満足度の高いセミナーとなりました。

《テーマ》A：アンガーマネジメント（浅野えみ氏）

B：キャリアデザイン（阿部優美氏）

C：コミュニケーション（伊藤こず恵氏）

D：リーダーシップ（中井菜由子氏）

E：メンタルヘルス（西田稚子氏）

F：アサーション（松田友理江氏）



〔交流会（オンライン）の様子〕

(4) マザーズジョブサポート山形・庄内の取組み

就職を希望している子育て中の女性を支援するため開設した仕事と家庭のワンストップ支援窓口、マザーズジョブサポート山形及び庄内では、離職してからのブランクに対する不安や、お子さんの預け先に悩みを抱えていらっしゃる方などの相談に対応する窓口として、マザーズ・コンシェルジュによる総合相談を実施しております。



〔出張相談会の様子〕

併せて、保育ルームを設置し、相談中や就職面接時等における託児サービスの提供を行っています。

また、様々な業種に関心を持つきっかけとし、就業に関する女性の選択肢を広げることを目的として、「職業理解セミナー」や「職場見学会」※を開催しました。その他、県内6ヶ所のハローワーク等にマザーズ・コンシェルジュが出張しセミナーや個別相談を行う「マザーズおしごと相談会」や就職面接用のスーツ・靴・バッグの貸出等を行っています。

コロナ禍では、感染拡大防止と相談対応を両立するため、オンラインや電話による相談にも対応しました。

※マザーズジョブサポート山形でのみ開催

【令和4年度利用実績】

	県窓口利用者数	就職者数	保育ルーム利用者数 (託児数)	セミナー受講者数
マザーズジョブサポート山形	705人	228人	200人	147人
マザーズジョブサポート庄内	552人	141人	95人	110人

【令和4年度マザーズおしごと相談会実績】

地域	会場	実施回数	相談者及びセミナー受講者数(延べ)
村山地域	ハローワーク村山等	3回	5名
	ハローワーク寒河江等	5回	9名
最上地域	ハローワーク新庄等	6回	10名
置賜地域	ハローワーク米沢等	8回	15名
	ハローワーク長井等	4回	5名
庄内地域	ハローワーク鶴岡等	10回	45名

2. ワーク・ライフ・バランスの実践拡大に向けた取組み

(1) やまがたイクボス同盟の普及・拡大

女性の活躍や男性の家事・育児への参画促進など、男女が共に仕事と家庭生活を両立できる社会の実現を目指し、山形県知事や経済団体などのトップが発起人となり平成27年度に「やまがたイクボス同盟」を設立しました。令和5年3月末現在の加盟企業数は、535社となっています。

また、「やまがたイクボス同盟」では、今年度、以下の取組みを行いました。

○ やまがたトップセミナー

経営者や管理職、組織のリーダー等を対象に、誰もがいきいきと働き続けられる職場環境をつくることを目的に、「やまがたトップセミナー」をオンラインにて開催しました。

講師には、沢渡あまね氏（作家・ワークスタイル&組織開発専門家）をお招きし、多様な人材が活躍し成長できる組織作りについてお話いただきました。

【日 時】令和4年11月14日（月）

【参加者】経営者、管理職、組織のリーダー等 104名

【内 容】

基調講演

演題：「多様な人材が活躍し成長できる～地域の未来地図～」

講師：沢渡あまね氏（作家・ワークスタイル&組織開発専門家）



〔セミナー（オンライン）の様子〕

【基調講演要旨】

- (1) ダイバーシティの本質は「成長意欲（または能力）がある人」が、正しく活躍するためのハードルや垣根をなくすことにある。
 - 本当に社員を愛するならば、社員の成長を促し、会社に必要な人材に育てていくことが大切である。その成長を妨げる悪意ないハードルに気づき、なくしていくことが会社にとって重要な業務プロセスである。
 - ハードルをなくし、ダイバーシティ&インクルージョンを実現するためには、組織のデジタルワーク化（脱アナログ化）やマネジメントシフト、マインドシフトが必須であり、それなくして優秀な人材は集まらない。
- (2) 従来の統制型（旧製造業型）一辺倒のビジネスモデルは、組織と個人の成長リスクになる。
 - ルールありきでビジョン・ゴールを設定する従来のモデルでは、いくら優秀で柔軟な発想ができる人材がいても、型にはめられて無力化されてしまい能力が発揮できず成長も望めない。
 - 新しいオープンなビジネスモデルに変革するためには、コストや時間を”削減”していくのではなく、新しい価値を生み出す「余白」を”生み出す”ための投資が必要である。
- (3) 越境学習・越境思考
 - 越境学習とは、「価値観の揺らぎ」によっておこる「気づき」「発見」「学び」のことで、時に恥ずかしい思いをしたり、苦しい思いをしたりするが、それに向き合うことで新たな景色が見えてくる。
 - 越境は中途採用や副業、出向や社外研修などをさし、見える景色を変えることで組織や業界、地域の「望ましい状態」を定義づけることができる。
 - 越境は一部の意識が高い人材だけではなく、すべての人材が越境に対して前向きになることが重要。越境した人材だけが前向きな状態では、越境学習した人材が戻ってきても型にはめられて無力化されてしまう。

【参加者の声】

- 「景色を変えれば組織（地域）は変わる」の言葉が特に印象的でした。社員・同僚と同じセミナーに出たり、同じ本を読んだりし交換・共有していきたいと思います。
- 越境は半径5mからできる、というのは目から鱗でした。新しい視点を持つことのハードルを、自分で勝手に上げていたように思います。まずは今できることから、取り組みたいと感じます。

○ 「やまがたイクボス同盟ウェブアクション」の実施

男性の家事参画を進めるため、「料理から始める家事参画プロジェクト」として取組みを行いました。実施期間中に「家事参画強化 DAY」として一斉帰宅日を設け、行った家事の写真等を企業 HP や SNS で発信し、県 HP、SNS でも周知することで、家事参画に向けた取組みを広めました。

県では、こうした優良事例の普及・拡大を通して、県内企業・団体におけるワーク・ライフ・バランスの実現を図っています。

【実施期間】令和4年9月1日（木）～9月30日（金）

【参加企業・団体数】12 組織、66 名

【参加組織（企業・団体）からの声】

- ・社員の意外な一面を見ることができて、有意義だった
- ・自社企画として、継続して取り組んでいきたい
- ・普段から料理をしている方も、写真を撮ることでモチベーションが上がったようだ
- ・普段家事をしない人にどのようにアプローチするのが課題



(2) 男性の家事参画推進事業

改正育児・介護休業法の成立・施行等、男性の育休取得を促す動きが加速する中、当事者である男性の意識啓発と職場の理解向上のため、男性育休取得の意義を啓発するオンライン連続セミナーを開催しました。

◆第1回

【開催日】令和4年10月6日（木）

【テーマ】「男性育休推進の本質を理解し、誰もが幸せに働ける企業へ」

【参加者】企業等の人事労務担当者等 163 名

【基調講演】

第1部では安藤哲也氏（NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事）を講師に、男性が育児休業を取得することの意義と、男性育休が企業や社会にもたらすメリットについてお話しいただきました。

第2部では高橋理里子氏（ミライズ株式会社専務取締役）を講師に、育児・介護休業法の改正のポイントや従業員に育児休業を取得してもらうための具体的な手法などを学びました。

◆第2回

【開催日】令和4年10月24日（月）

【テーマ】「先進企業の取組みを学び、翌日からの実践へ」

【参加者】企業等の人事労務担当者等 72 名

【パネルディスカッション】

第1部の事例発表では、県内の男性育休先進企業より横山誠氏（朝日金属工業株式会社）、川合智子氏（株式会社ジョイン）、菅原真実氏（有限会社菅原物流）の3名に登壇いただき、各社の取組事例やこれからの課題を共有しました。

第2部では事例発表の3名に加え、高橋理里子氏と伊藤麻衣子氏（合同会社work life shift 代表）によるパネルディスカッションを行い、取組みを進めるうえでの失敗談やこれから取組みを進める企業等へのアドバイスを行いました。



〔パネルディスカッションの様子〕

◆第3回

【開催日】令和4年12月17日（土）

【テーマ】「男性の育休取得と家事・育児参画で深まる大切な家族との絆」

【参加者】育休取得予定の男性67名

【講演・ワークショップ】

第1部の高橋理里子氏による講演は、男性が育休を取得することのメリット、取得しないことのデメリットの解説や育休取得に対する疑問や不安を解消する内容でした。

第2部のワークショップでは、実際に育休を取得した男性を交えての意見交換会を行い、育休時の一日のタイムスケジュールやパートナーとの役割分担など、より実践的な内容となりました。

（3）女性の新規就業支援・女性活躍支援事業

2名のマッチングコーディネーターが直接企業を訪問し、「やまがたイクボス同盟」や各種アドバイザー派遣などに関する県や国の制度等の紹介などを通して、女性も働きやすい職場環境の改善を支援するとともに、女性の雇用を拡大することを目的として実施しました。

令和4年度の訪問企業数は277社となっております。

3. 地域における男女共同参画の推進

（1）山形県男女共同参画社会づくり功労者等知事表彰

男女共同参画社会づくりに特に顕著な功績のあった個人若しくは団体又は仕事や地域活動等様々な分野でチャレンジし活躍している個人若しくは団体を顕彰し、その功績を称え、男女共同参画社会づくりに対する県民の一層の関心を高め、男女共同参画社会の形成の促進を図るため、「山形県男女共同参画社会づくり功労者等知事表彰」を実施しました。令和4年度は、功労者表彰を1名、チャレンジ賞を1団体が受賞され、令和4年10月20日（木）に表彰式が執り行われました。



〔吉村知事と受賞者による記念撮影〕

受賞者概要（功労者表彰）

功労者表彰は、男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が特に顕著であると認められる個人・団体を表彰するものです。

井東 敬子 氏（鶴岡市）

好きなことで地域課題を解決する小さな起業「ナリワイ」を目指す「鶴岡ナリワイプロジェクト」を設立。連続講座「ナリワイ起業講座」を通して、「子育てのためフルタイムでは働けない」、「UIターンしたが自分のキャリアを活かせる就労先がない」等といった課題を抱えた多くの受講女性に「ナリワイ」という“新しい働き方”を提案し、多様な働き方で自分の能力を発揮するきっかけをもたらすとともに、受講生たちの様々な取り組みによって地域活動のすそ野を広げている。

さらに、女性が防災に役立つ情報交換や学び合いを行うSNSコミュニティ「防災女子jam」を立ち上げるなど、防災分野における女性の参画の促進にも貢献している。

受賞者概要（チャレンジ賞）

チャレンジ賞は、仕事や地域活動など様々な分野で活躍している個人・団体を表彰するものです。

山形ママコミュニティmama*jam（山形市）

山形在住の母親たちが山形での育児に関する悩み相談や情報交換を通して相互の親睦を深めるSNSを活用したオンラインコミュニティ活動を展開。県内において先駆的な取り組みであり、団体設立後3年で参加者数700名以上と県内最大規模を誇り、多くの母親の不安解消に貢献し前向きな意識を醸成するなどその活動の社会的意義は大きい。

さらに、メンバーが個人個人のスキルや意欲に応じ、当該団体の自主事業や他機関との協働事業であるセミナーやイベント等の企画運営に参加することで子育て期における母親の社会参画やキャリア形成を促進している。

（2）山形県男女共同参画推進員の取組み

県では、平成28年度より、県内の各地域において男女共同参画社会の形成に関する理解の浸透を図るために、各地域の実情や特性を踏まえ、地域の中で男女共同参画を推進する「山形県男女共同参画推進員」を設置しています。

男女共同参画に関する普及・啓発や県や市町村が実施する施策の地域への情報提供などのほか、自治会や団体などからの要望に応じた出前講座を実施し、令和4年度は延べ532回の活動を行っております。

【推進員の設置状況】

村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
19名	6名	4名	6名	35名

(3) 男女共同参画の視点に配慮した表現のガイドラインの作成

行政が日々、様々な媒体を通して発信している情報は、県民の考え方や意識に広く影響を及ぼすこともあることから、県では、公的広報における男女共同参画の視点に配慮した表現についてのガイドライン「男女共同参画の視点に配慮した表現のガイドライン—公的広報の手引き—」を作成し、県内の各自治体に発信しました。

ガイドラインは、山形県男女共同参画推進員による出前講座でも、男女共同参画の視点をわかりやすく視覚的に伝える資料として広く活用しています。



4. 山形県男女共同参画センター・チェリアの取組み

(1) 山形県男女共同参画センター・チェリアの概要

山形県男女共同参画センターは、男女が社会の対等な構成員として、社会のあらゆる分野に共同参画する豊かな社会「男女共同参画社会」の実現をめざす活動交流拠点として、平成13年4月1日より遊学館（山形市）内に開設しました。

愛称である「チェリア」は、チェリー（さくらんぼ）とエリア（場所）の組合せによる造語です。さくらんぼは山形県の名産であり、また二つの実が一緒になっている形が男女仲良く並んで男女共同参画を表現しているように見えることからセンターのシンボルマークにもなっております。



〔チェリアシンボルマーク〕

＜チェリアの主な取組み＞

① 県民の男女共同参画に関する意識改革

民間団体・グループが実施する男女共同参画に関する講座等の開催経費に助成金を交付する県民企画事業や、広報誌「チェリア」の発行やホームページによる情報提供を行っています。

② 地域における身近な男女共同参画の推進

登録団体・グループの発表など県民の参加と交流を目的としたチェリアフェスティバルや県内4ブロックにおいて各地域が主体となって企画、実施するネットワーク活動や地域講座等を実施しています。

③ ワーク・ライフ・バランス及び女性の活躍推進

企業や地域において男女共同参画を推進するキーパーソンや女性リーダーを育成する「チェリア塾」の開催や企業で働く女性を対象に、職場で活躍するためにキャリア開発に必要なビジネススキルを学ぶ「やまがた女性キャリアアップセミナー」の開催、男性の意識啓発促進のための男性セミナーの開催等を実施しています。

④ 男女共同参画に関する相談・支援

一般相談、男性相談、専門相談（弁護士による法律相談、臨床心理士によるこころの相談）を実施するとともに、相談機関の初任者研修会・実務者研修会やDV講座を開催しています。

⑤ その他男女共同参画に関する業務

各種調査、団体への指導及び各種研究を行っています。

（２）令和４年度の主な実施事業

○ チェリア恒例の祭典「チェリアフェスティバル山形 2022」を開催！

チェリアフェスティバルは、男女共同参画社会づくりを目指して活躍している団体・グループの活動発表や県民の皆様との交流を目的に、「ちがいを超えて 平和と未来へ紡ぐハーモニー」をテーマとして10月1日(土)～10月10日(月)に遊学館で開催しました。

チェリア登録団体から選ばれた実行委員の企画により、講演会や団体・グループによるワークショップ、活動発表など今年も盛りだくさんの内容で、延べ948人(オンライン参加含む)のご来場をいただきました。

【福田和子氏による講演会】

#なんでないのプロジェクト主宰の福田和子氏から「誰もが知っておきたい性と生殖に関する健康と権利」をテーマとして講演いただきました。すべての人が自分のからだについての選択を自由にできるとの力強いメッセージをいただきました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン配信による講演（遊学館ホール来場参加とオンライン参加）となりましたが、多くの方が集まった会場は、静かな熱気に包まれていました。



〔福田和子氏〕

【団体・グループの活動発表】

ワークショップ 13 団体、展示発表 11 団体、県民交流 4 団体と多くの団体が日頃の活動の成果を発表しました。

【アトラクション・にぎわいコーナー】

オープニングセレモニーでは「美しいやまがたアルプホルンクラブ」のすばらしい演奏が行われ、屋外ピロティエを利用したにぎわいコーナーは、物品販売、フリーマーケット、パステル画体験、バルーンアートの実演などで賑わいました。

〔アトラクション・にぎわいコーナーの様子〕



○ 「チェリア塾基本コース」を庄内地域で開講

企業や地域において、男女共同参画を推進するキーパーソンや女性リーダーを育成するとともにそのネットワーク化を目的に、「チェリア塾・基本コース」を庄内地域で開講しました。オンデマンド配信の活用やアメリカピッツバーグに繋いでのオンライン講座など、新たな取組みを行いました。活発な意見交換、交流が行われ、修了者数は14名で、次年度の実践コースに進む準備を行っています。



【第1回】「このモヤモヤはどこから ～ジェンダーと人権～」

講師：伊藤真知子氏（山形県男女共同参画センター 館長）

【第2回】「キャリアデザイン ～自分にできること・したいこと・やらなければならないこと～」

講師：尾形恵子氏（有限会社ティップス 取締役社長）

【第3回】「自分も相手も大切にするコミュニケーション～安全感・尊重・同意～」

講師：伊藤真知子氏（山形県男女共同参画センター 館長）

【第4回】『仕方がない』を『仕方がある』へ～コミュニティ・オーガナイズングとは？～

講師：鎌田華乃子氏

（特定非営利活動法人コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン理事・共同創設者）

【第5回】「今日はゴールをスタートに変える日～ふりかえりと次のステップへの踏み出し～」

講師：廣瀬隆人氏（一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事）

○ 「チェリア塾実践コース」を村山地域で開講

「チェリア塾・実践コース」は、基本コース修了生を対象に、受講者自らが自主企画講座を企画・運営し、実践力を身につけるとともに確固たるネットワークを築くための講座です。本年度は、村山地域での基本コース修了生のうち6名が参加し、自主企画講座を開催しました。受講者は役割を分担し、苦勞しながらも協力し合って最後は成功裏にやり遂げました。

【講師】廣瀬隆人 氏（一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事）

【自主企画講座】（チェリア塾15期生）

『いちご café～あなたのもやもやを色とことばにしてみませんか？～』

自主企画内容の決定に苦慮しましたが、多くの話し合いを重ね、外部講師の招聘ではなく、グループの発案企画で運営する新しい試みとなりました。多くの方から参加いただき、前半部ではアートセラピーワークショップ、後半部ではティータイム&カードを利用した話し合いの2部構成で開催しました。最後にチェリアの伊藤館長より講評をいただきました。



○ 「チェリア塾専門コース」を開講

【ワークショップ技法の習得】

チェリア塾修了生や男女共同参画推進員を対象に、出前講座等の実践活用を念頭に、チェリア塾専門コースとして男女共同参画を分かりやすく伝えるための「男女共同参画ワークショップの技法の習得」講座を開催しました。

今年度は新たな取組みとして、チェリア塾修了生・県男女共同参画推進員(有川富二子氏、石澤多貴子氏、沼野慈氏、村山恵美子氏)を講師とし、アドバイザー・オブザーバーとして東北文教大学短期大学部特任准教授の齋藤由美子さんから助言等をいただきながら、実践編という位置づけで全3回の講座を開催しました。また、今年度は新たにグループによる実践から個人毎の実践に変更し、受講生全員(6名)が「仮想出前講座」を実践し、出前講座の要請に対していつでも対応できるまでに成長した姿を見ることができました。今後、講師・ファシリテーターとしての活動が期待されます。

○ 「やまがた緑塾」を開講

出前講座や男性セミナーなどの講師として活動するためには、それを分かりやすく伝える技法とともに、男女共同参画に関する理論についてもある程度正確に持ち合わせておくことが重要です。

このため、伊藤眞知子氏(山形県男女共同参画センター館長)を講師に、「やまがた緑塾」(会場・オンライン参加)を4回開講し、ジェンダーに関して体系的・理論的に学びました。第2回目は、池田弘乃氏(山形大学人文学部准教授)を招き、LGBTについて学びました。オンライン参加も含め、延べ155名と多くの方々から参加いただきました。



○ 「やまがた女性キャリアアップセミナー」の開催

企業で働く女性を対象に、職場で活躍するためにキャリア開発に必要なビジネススキルを学ぶ講座を開催しました。県内の多くの企業からの参加があり、受講生の意識も高く充実したものとなりました。

- ・開催日：第1回 令和4年10月20日(木) 参加者：25名
第2回 令和4年11月10日(木) 参加者：26名
- ・講師：安達隆司氏(ヒューマンアプローチ研究会 代表理事)
- ・場所：遊学館



○ 男性セミナーの開催

県内2地域のチェリア塾修了者による「チェリア塾ネットワーク」が男性の男女共同参画への気づきを促すセミナーを企画・開催しました。

【村山地域】「ちがいがわかる男のコーヒー講座」

- ・開催日：令和4年10月22日(土) 場所：朝日町立西部公民館
参加者：21名
- ・講師：赤塚宏之氏((株)東北萬国社コーヒーインストラクター)
チェリア塾ネットワーク村山ほか

【最上地域】「男らしさって何？ジェンダーバイアスを考える」 (アクティブブックダイアログ)

- ・開催日：令和5年1月22日(日) オンライン 参加者：20名
- ・講師：阿部和恵氏 (ABD 認定ファシリテーター) ファシリテーター：チェリア塾ネットワーク最上



〔コーヒー講座〕

○ 男性相談の実施

男性は、悩みごとがあっても誰にも話せず、一人で抱え込んで頑張り過ぎてしまう傾向があると言われ、深刻な事態に発展してしまう場合もあります。

このため、男性が相談しやすい環境整備を目的に、「やまがたいのちの電話」のご協力で男性相談員を配置し、「男性ほっとライン」として男性相談専用の電話相談窓口を設置しています。(毎月第1・第2・第3水曜日：19:00～21:00)

○ 「DV防止講座」の開催

女性に対するあらゆる暴力が重大な人権侵害であることや、暴力を許さない社会の形成に向けた普及啓発を図るため、一般県民向けの講座をDV防止普及啓発期間中に開催しました。

【テーマ】「女性が学ぶ、女性を守る法律講座～あなたが、あなたらしく生きていくために～」

【開催日】令和4年11月18日(金) 会場：遊学館

【講師】土田文子氏(弁護士法人あかつき法律事務所 弁護士)

【参加者】13名

5. DV未然防止に向けた意識啓発の強化

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、一般的には「配偶者など親密な関係にある、またはあった人から加えられる暴力」、デートDVとは、一般的には「婚姻関係にない10～20代の交際関係にある、またはあった人から加えられる暴力」をいいます。

令和元年度県民意識調査では、「DV(ドメスティックバイオレンス)」の認知度が84.9%、「デートDV」の認知度が67.2%となっております。

県では令和3年3月に「山形県DV被害者支援基本計画」を策定し、男女が互いに人権を尊重し、暴力のない社会の実現に向け、取り組んでいます。県の令和4年度に実施した主な取組みを紹介します。

(1) デートDV防止出前講座の実施

若年層におけるDV、デートDV事案の未然防止、意識啓発のため、平成24年度から県内公立・私立高等学校、短期大学、大学等の生徒を対象に「デートDV防止出前講座」を実施しています。講師による講話のほか、事例紹介、ロールプレイ等、高校生や大学生等への啓発を行いました。令和4年度は、9校、約1,000名の生徒・学生等が参加しました。

【事業実施回数】

	高等学校	大学・短大	専門学校	計
令和4年度	7	1	1	9
延べ実施回数	105	22	15	142

【令和4年度アンケート結果】※分母に未回答を含む

＜「デートDV」という言葉を知っていたか＞

言葉も意味も知っていた	40.0%
言葉は知っていたが、意味は知らなかった	29.0%
言葉も意味も知らなかった	31.0%

＜講座を聞いてみて、考えや気持ちに変化はあったか＞

変わった	48.6%
変わらなかった	51.4%

【参加者からの声】

- ・自分を大切にすることで、相手も大切にすることができると思った。
- ・お互いの合意の元で行動していくことで、良い関係を築くことができると思った。

(2) ～女性に対する暴力をなくす運動～パープル・リボンキャンペーン

パープルリボンキャンペーンとは、パープル（紫）色のリボンを身につけることで、「暴力のない世界にしたい」という思いや、被害者に対する理解・支援を行う運動です。令和4年度は、「性暴力を、なくそう」をテーマに県内各地で広報・啓発活動を行いました。

【主なキャンペーンの内容】

①パネル展

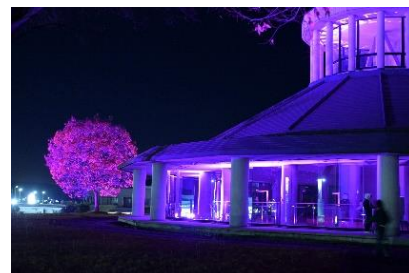
県庁、県男女共同参画センター「チェリア」、10市町（山形市、米沢市、酒田市、上山市、南陽市、尾花沢市、中山町、高島町、川西町、戸沢村）で実施

②市町村広報誌による周知・啓発

23市町村で掲載

③パープルライトアップ

文翔館、慈恩寺テラス、上山城、旧米沢高等工業学校本館、川西町役場庁舎南側、荘銀タクト鶴岡、日和山公園六角灯台、高島町文化ホール「まほら」周辺



〔高島町文化ホールのパープルライトアップ〕

《参考》DV相談ナビ「#8008（はれれば）」について

DV相談ナビとは、配偶者からの暴力に悩んでいることを、どこに相談すればよいかわからないという方のための、全国共通の電話番号です。「DV相談ナビ「#8008」」にかけるとお近くの配偶者暴力相談支援センターにつながります。（ご利用には通話料がかかります）

相談は、匿名で行うこともでき、相談をした人、その内容に関する秘密は守られます。DVと思ったらすぐにご相談ください。

6. コロナ禍で不安や悩みを抱える女性への支援

長期化する新型コロナの感染拡大が、女性の雇用や生活に大きな影響を及ぼす中で、社会的に孤立している女性に寄り添ったきめ細かい対応を図るため、相談体制の充実や女性同士のつながり支援の強化、生理用品の無償提供からなる「やまがた女性のつながりサポート事業」を実施しました。

(1) やまがた女性のつながりサポート事業

■県男女共同参画センター「チェリア」（遊学館2階）の相談体制の充実

○ 女性のためのこころの相談（オンライン）の実施

・集中相談期間

第1回 令和4年8月26日（金）～9月1日（木）

第2回 令和4年10月7日（金）～10月12日（水）

・定例相談日

令和4年5月～令和5年3月の第1・3・5土曜日（年末年始を除く）

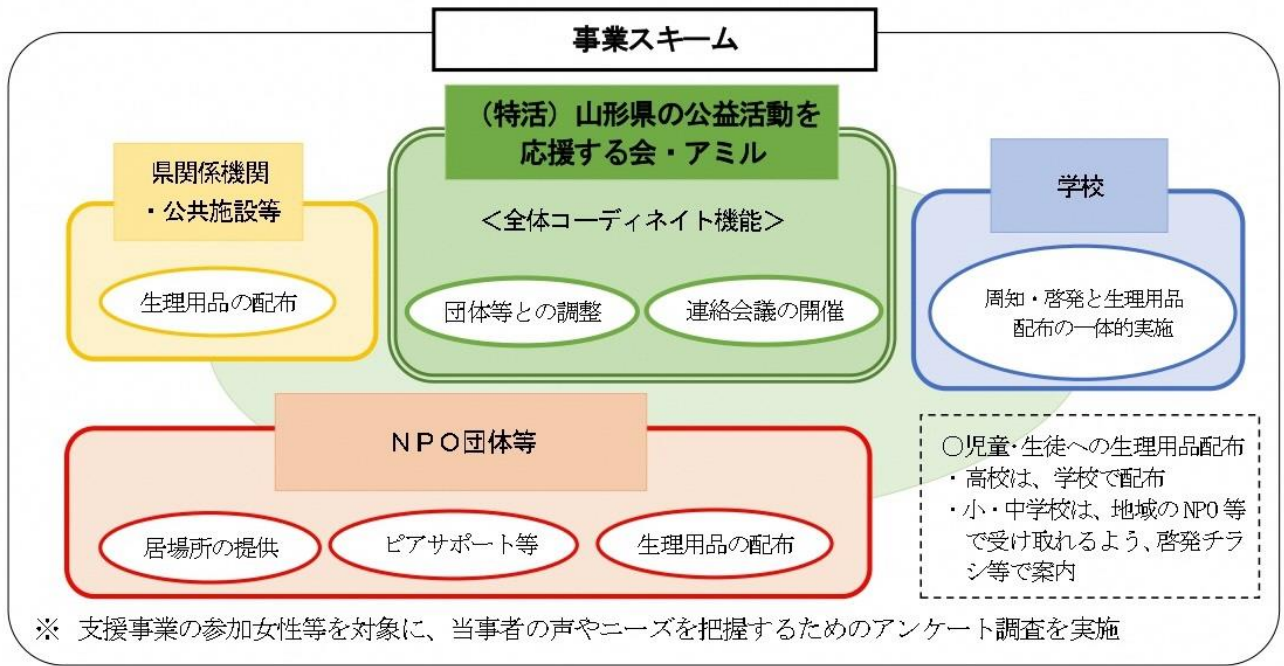
■女性同士のつながりサポート、生理用品の無償提供

○ NPO団体等によるピアサポート等の実施

・公共施設やオンラインなどで、女性同士が不安や悩みを分かち合う交流カフェ等の実施

○ 生理用品の無償提供

・相談事業やNPO団体等が実施するピアサポート等の周知・啓発と一体的に実施



○ NPO等支援提供団体 (30 団体)

区分	支援内容	団 体 名	住所
コース I 4 団体	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な居場所の提供 ピアサポート等の単発イベント 生理用品の配布 	(特活) クローバーの会@やまがた	山形市
		(特活) オープンハウスこんぺいとう	新庄市
		(特活) ほっと	飯豊町
		(特活) ぼらんたす	鶴岡市
コース II 12 団体	<ul style="list-style-type: none"> ピアサポート等の単発イベント 生理用品の配布 	(特非) プチユナイテッドアスリートクラブ	山形市
		ふらっと☆輝くママの会	山形市
		プリラ ハンドメイドクラブ	山形市
		(一社) 山形助産師会	山形市
		在宅介護を支える家族の会	村山市
		ままらんぼ母親クラブ	東根市
		(特活) ご・ざあ〜れ広場	河北町
		(一社) 希望活動醸成機構	朝日町
		(特活) 青空保育たけの子	米沢市
		庄内ちえりあ	酒田市
ナリワイ ALLIANCE	三川町		
庄内てまりの会	庄内町		
コース III 14 団体	<ul style="list-style-type: none"> 生理用品の配布 	1 5 YELL	山形市
		(特活) A Village	山形市
		国際ゾント山形ゾントクラブ	山形市
		日本丹田呼吸セラピー協会	山形市
		(認定特活) 発達支援研究センター	山形市
		山形県労働組合連合	山形市
		やまがた女性21	山形市
		山形てのひら支援ネット	上山市
		(特活) Yamagata 1	東根市
		(特活) NPO もがみ	新庄市
		(特活) 芸術文化振興市民ネット新庄	新庄市
		(一社) とらいあ	新庄市
(特活) すぷうん	高島町		
遊佐町白ゆり	遊佐町		

○ 県関係機関等による生理用品配布（19箇所）

- （村山地域） 県庁1階受付、県庁女性・若者活躍推進課、村山総合支庁1階受付、村山保健所子ども家庭支援課、村山総合支庁生活福祉課、県立図書館、山形県男女共同参画センター、山形県ひとり親家庭応援センター、山形県社会福祉協議会、山形県看護協会、ハローワーク山形マザーズコーナー
- （最上地域） 最上総合支庁子ども家庭支援課、最上総合支庁地域保健福祉課
- （置賜地域） 置賜総合支庁子ども家庭支援課、置賜総合支庁地域保健福祉課、ハローワーク米沢マザーズコーナー
- （庄内地域） 庄内総合支庁子ども家庭支援課、庄内総合支庁地域保健福祉課、ハローワーク酒田マザーズコーナー、ハローワーク鶴岡マザーズコーナー

○ 高等学校への生理用品配布

- ・ 県内の県立、私立高等学校に希望調査を実施し、希望数を配布

（参考）生理用品配布数（計16,169パック）※1パック30個入り

- ・ NPO等支援提供団体配布分：9,648パック
- ・ 県関係機関等配布分：1,553パック
- ・ 高等学校への提供分：4,968パック

7. 提言等

（1）全国知事会提言

**男女共同参画の推進に関する提言～ジェンダー平等の実現に向けた提言
～世界のフロントランナーとなるための4つ（教育・経済・政治・健康）の戦略～**

○ 取組みの背景

全国の知事が協力して、男女共同参画について総合的に調査・研究等を行い、適切な施策を強力に推進するため、全国知事会に男女共同参画プロジェクトチームが設置されています。

本県の吉村知事は、平成24年から当プロジェクトチームのリーダーに任命され、今年度も7月開催の全国知事会議に向けて各都道府県知事と協力し提言書を取りまとめました。令和4年8月18日（木）には中島全国知事会事務総長が、吉村知事の代理※として小林厚生労働審議官、岡田内閣府男女共同参画局長、北波内閣府子ども・子育て本部審議官に対して要請活動を行いました。

※7月の集中豪雨による災害対応によるもの

○ 提言の内容

【第1部】ジェンダー平等を実現するために

（教育分野）

提言1 ジェンダー平等の実現に向けた教育・学習の充実及び意識改革の促進

（経済分野）

提言2 雇用等における男女の均等な機会・待遇の確保

（政治分野）

提言3 政治分野における女性の参画促進

（健康分野）

提言4 生涯を通じた健康支援の強化

【第2部】あらゆる暴力を根絶し、様々な困難を克服するために

提言5 暴力の根絶に向けた対策の推進

提言6 生活上の困難に対する支援

【第3部】地方で女性も活躍できる環境を整備するために

提言7 女性活躍の推進に地方が本気で取り組むための十分な財源の確保
提言1 新型コロナウイルス感染症拡大により様々な困難・課題を抱える女性への支援の強化

提言2 「持続的な社会」の実現に向けた男女共同参画の取組みの強化

提言全文は、全国知事会ホームページをご覧ください。

男女共同参画プロジェクトチーム

検索

(2) 森まさこ内閣総理大臣補佐官主催「女性首長との車座対話」

10月28日(金)に吉村知事が森まさこ内閣総理大臣補佐官(女性活躍担当)主催の「女性首長との車座対話」にオンラインで参加しました。「女性首長との車座対話」は、岸田総理の女性関連施策の遂行を補佐するため、森まさこ内閣総理大臣補佐官(女性活躍担当)が女性知事、女性市長から女性活躍推進に関する声を聞き取ることを趣旨として開催しているものです。地方行政の要である女性首長たちと女性の経済的自立に係る課題・取組等について議論し、今後の地方女性施策の方向性を探ろうと、各首長からの女性活躍施策の説明の後、吉村知事を含めた出席者が意見交換を行いました。

【参加者(吉村知事除く)】

森まさこ 内閣総理大臣補佐官(主催・座長)

福岡県宗像市 伊豆美沙子市長

徳島県徳島市 内藤佐和子市長

茨城県土浦市 安藤真理子市長

総務省 尾身朝子総務副大臣

〔女性首長との車座対話(オンライン)の様子〕



(首相官邸HPより)

(3) 日本政府主催の国際女性会議 WAW ! 2022

WAW!は、World Assembly for Women の略称で、「ワウ！」と呼ばれています。この会議は、日本政府の最重要課題の1つであるジェンダー平等と女性のエンパワーメントを国内外で実現するための取組の一環として2014年から開催している国際会議であり、今回が6回目の開催となりました。

会議は令和4年12月3日(土)東京都の三田共用会議所で開催され、世界の様々な地域、国際機関から女性の分野で活躍するトップ・リーダーが参加し、日本及び世界における女性のエンパワーメント、女性の活躍促進のための取組について議論が行われました。本県の吉村知事は、全国知事会を代表して、分科会10「女性と防災」にパネリストの一人として登壇し、自身が指揮した東日本大震災での避難者受入れの取組などを通して得た経験を語り、災害時の女性のニーズをくみ取る重要性や平時の防災の取組に女性の視点を取り入れる必要性を訴えました。

〔国際女性会議 WAW!2022 分科会10「女性と防災」の様子〕



(外務省HPより)

開催概要やプログラム、報告書は、外務省ホームページをご覧ください。動画も配信されております。

国際女性会議 WAW ! 2022

検索

(4) 「女性首長によるびじょんネットワーク」会議

令和4年11月20日(日)、小池東京都知事と本県の吉村知事が共同座長を務める、女性活躍推進に向けた女性首長による会議「第4回女性首長によるびじょんネットワーク会議」が東京商工会議所 渋沢ホールを会場にオンライン併用で開催されました。全国の女性首長と駐日女性大使、女性経営者が、女性の視点を取り入れた組織運営や地域活性化策などについて意見・情報交換を行いました。

会議では、基調講演や女性首長と駐日女性大使、女性経営者による分科会等が行われ、女性が輝く社会の実現を目指した宣言文の発表も行いました。